



## 事例 5

# 危険予知トレーニングで 安全人間をつくる

クボタ 宇都宮工場

「安全人間づくり」のため、全員参加のKY(危険予知)活動を推進するクボタ宇都宮工場。近年は「見せる工場づくり」として、工場内の整備はもちろん、工場紹介DVDを独自に作成。顧客だけでなく従業員に向けても工場の安全・品質に注力している様子をアピールし、従業員のモチベーションの維持向上にもつなげている。「1人ひとりカケガエノナイひと」を合言葉に、「決めたこと」の継続と、時代の環境変化に対応した新たな取組みへの挑戦により、万全な安全衛生活動を行っている。

### 全社で「安全人間ガイドライン」を策定

クボタグループは「人命を犠牲にしてまでも、遂行しなければならない業務は存在しない」とし、それを実現するために、事業にかかわるすべての人が「安全最優先」で行動することを、安全衛生の基本理念としている。その理念を具体化するものとして、全社で「安全人間ガイドライン」を策定。「(危険に気づき+危険を回避する技)×安全を大切にできる心・意識で自分の身を自分で守る行動ができる人」=「安全人間」と定義し、そのた

めに行うべき8つの要素を1日の基本サイクルとして意識し行動するよう促している。

「この“×(カケル)”がポイントです。いくら危険に気づいたり技があっても、意識が低いとゼロになってしまいます」と清水清史工場長は意識の大切さを指摘する。

### 災害の原因は人に起因するものが75%

田植機とコンバインの主力生産工場である宇都宮工場では、コンバインは夏に、田植機は冬・春に生産しており、生産量の季節変動が激しい。そのため繁忙期に派遣社員などの新入職者が多くなる。また構内請負作業が多いという特徴もある。つまり、そうした人たちにしっかり教育することが、無事故・無災害、品質向上につながる。

実際、2005年度に大型コンバインの製造を宇都

安全チームのメンバー。左から、松川淳安全担当課長、疋田誠司主任安全管理者、清水清史工場長、田仲英一氏、赤羽富士男職長



### 会社概要

会社名：(株)クボタ 宇都宮工場  
所在地：〒321-0905  
栃木県宇都宮市平出工場団地22-2  
設立：1969年  
従業員数：約700名  
事業内容：田植機、コンバインの製造



宮工場で始めたことにより、仕事量が増加。派遣社員も増え、年間4件程度だった災害が13件に急増した。06年5月には塗装現場で火災が起きるなど、事故・災害が続いた。これらの発生原因を分析したところ、「危ないと思っていなかった」「ルールを守らなかった」といった人に起因する「不安全行動」が75%を占めていることが判明した。

「そこで、“ケガの起こらぬ環境づくり”を進めると同時に、“ケガを起さぬ人づくり”をすることにしました」(清水工場長)。

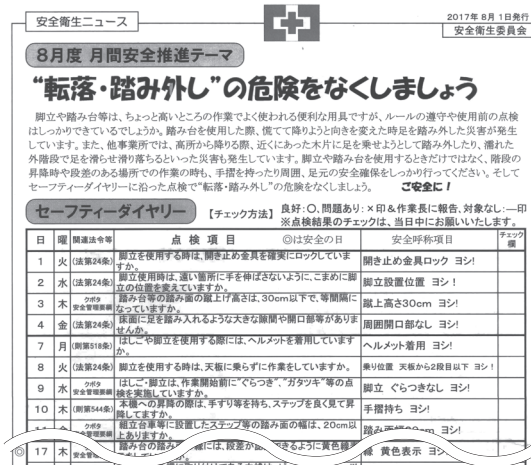
「危険箇所」はリスクアセスメントで、「管理体制」はマネジメントシステムで対応し、「安全人間づくり」は、KYT(危険予知トレーニング)によって実現することを目指し、三位一体となった安全衛生活動を展開することとした。

### 自主的な安全衛生活動の推進役として「安全リーダー」を新設

まず実施したのがゼロ災運動研修会への派遣である。正しいゼロ災唱和やKYTの進め方を身につけるため、職長や作業長、班長、安全リーダーなど92名がKYTトレーナー研修を受講したほか、安全衛生スタッフ、工場長などの幹部もそれぞれセミナーに参加した。安全リーダーとは、各職場での安全衛生活動を自主的に推進するために設けられた役割で、ベテラン社員から選出。現場だけでなく事務所を含めた各職場に必ずおり、現在40名が活動している。安全リーダーが行うことは具体的には、日々の朝礼で「セーフティダイアリー」(写真1)を読み上げて職場に注意喚起すること、全体朝礼終了時やミーティング終了時に行う安全唱和のリーダーやKYTのリーダーとなることである。

ほかにもさまざまな取組みを始めた。塗装現場で火災を発生させてしまったのは、06年5月15日だったため、この日を忘れぬよう、毎年5月15日に防災訓練などを実施。また毎月15日は「うつのみや安全の日」として朝礼放送と各課での安全朝礼を行い、啓発を図っている。08年3月には、マネジメントシステムを強化するため、中央労働災害防止協会のゼロ災運動推進宣言事業場にも登録した。

写真1 セーフティダイアリーの一部



### セーフティダイアリーで毎日点検事項を確認

活動の定着に欠かせないのが、前出のセーフティダイアリーである。これは、安全チームのメンバーが全従業員に向けて毎月発行する「安全衛生ニュース」に掲載される日々の「点検項目」で、各月の「月間推進テーマ」に従って毎日異なる内容を設定。つまり、1年間の全稼働日240日分の240項目が用意されており、毎日その日の点検項目を安全リーダーが読み上げる。15年10月からは「安全呼称項目」を追加し、ワンポイントで読み上げられるようにバージョンアップした。さらに16年度からは、「〇月度 私の安全行動宣言」の欄も設け、月間推進テーマに対応して、各人が自分の行動目標を書き込むようにしている。

このように進化が続くセーフティダイアリーについて、田仲英一氏は「専門用語をいかにわかりやすく説明できるか。ほかのシート類も同様ですが、守ってほしいことがしっかり伝わるように意識しています」と話す。

### コメントがびっしり書かれたKYTレポート

脱穀組立現場のKYTの進め方について、田代明作業長(写真2)によると、「情報源吸い上げのために大切」なのが、「HHK(ヒヤリ・ハット・気がかり)抽出」ミーティングである。朝礼で全員に